

第11回 OPI 国際学術研討会(台湾大会)議程

主題 双方向教育における教師と学生のあり方

(雙向互動教学中教師與學生所扮演的角色)

主催者: 淡江大学日本語文学系

場所: 淡江大学淡水校園驚聲國際會議廳(新北市淡水區英專路151号)

時間: 2017年8月4日・5日(金・土曜日)

プログラム(暫定)

一日目 2017年8月4日(金曜日)	
08:20-	開場 受付
08:50-09:10	開幕式 開会の辞 司会者 王天保(淡江大学助理教授) 張家宜(淡江大学学長) 嶋田和子(2017年第11次OPI台湾大会顧問) 塩沢雅代(日本台湾交流協会文化室主任)
09:10-10:10	基調講演1 司会者: 曾秋桂(淡江大学教授兼学科主任・村上春樹研究センター長・ 2017年第11次OPI台湾大会実行委員長) 講演者: 佐藤学(学習院大学教授) テーマ: 学びの共同体における学びの再定義と日本語教育
10:10-10:30	ティータイム
10:30-11:30	基調講演2 司会者: 潘慧玲(淡江大学教授兼学習與教学中心執行長) 講演者: 張輝誠(台湾中山女子高級中学教師、「学・思・達」創業者) テーマ: 「学・思・達」及び公開教室で齎した「学び」
11:30-12:20	世紀大対談: 佐藤学教授・張輝誠博士・潘慧玲(淡江大学教授兼学習與教学中心執行長) 司会者: 張鈿富(淡江大学教授兼教育学部学部長)
12:20-13:30	昼食(驚聲國際會議場内) ポスター発表
ポスター発表 (驚聲國際會議場 2階にて)	<ul style="list-style-type: none"> ① 池田隆介(北九州市立大学教授) 学術文章執筆能力の向上に貢献するルーブリック式レポート評価表 —日本人大学生のレポート自己評価、及び、ピアレビューを通じて ② 伊勢みゆき(新宿日本語学校) 日本人との「つながり」の中でのみ日本語の会話は上達するか —日本語学校におけるカリキュラムと会話能力の関係を探る ③ 内田康(淡江大学助理教授) 百人一首を用いた日本語-文学-文化体験学習連結の試み —淡江大学における事例の実践報告 ④ 大津友美(東京外国語大学准教授) 会話に参加するための能力を考える授業 —第二言語話者が参加する会話の分析を通して ⑤ 黄聖文・黄鴻銘・林明萱・李姿蓉(銘伝大学非常勤講師・銘伝大学修士課程) 台湾のA1レベル日本語学習の日本語使用場面に関する一考察

	<p>—高校における日本語クラス履修者を対象に</p> <p>⑥ 坂井菜緒（武蔵野大学非常勤講師） 初級日本語クラスにおけるビジターセッションの意義とは —日本語学習者とビジターの学びの考察</p> <p>⑦ 田邊充博（桜花日本語学園） 参加者が「対話」によって創る教室活動とは —ある初級日本語教室の実践から見る</p> <p>⑧ 中谷規子（ICT ビジネスジャパニーズ講師） 日本語学習者の語サーチ</p> <p>⑨ 持田祐美子・濱畑静香・永田由紀・永田沙織（平沢大学助教授・皇学館大学助教・高麗大学大学院博士課程・日本国際交流基金非常勤講師） 「どう・どんな質問」による効果的な発話抽出の一考察 —OPI テスター訓練生のインタビューデータをもとに</p>						
	<p align="center">パネル1:「プロフィシエンシーの視点からみた世界の日本教育現場」</p> <p align="center">司会者: 頼 振南(輔仁大学教授兼学部長・台湾日本語文学会理事長・国際医療翻訳協会理事長)</p>						
13:30-14:30	<p>プロフィシエンシーの視点からみた世界の日本教育現場</p> <p>韓国代表 川口 慶子(崇実大学招聘教授)</p> <p>ロシア代表 阿部 弘(国立研究大学高等経済学院上級講師)</p> <p>香港代表 上田 早苗(香港中文大学高級講師)</p> <p>ブラジル代表 向井 裕樹(ブラジリア大学文学部科長)</p> <p>Q&A 20分</p>						
14:30-14:40	ティータイム						
14:40-17:10	<p>OPI ファミリアライゼーション/OPI リフレッシュャーワークショップ</p> <table border="1"> <tr> <td>司会者 陳 姿菁(開南大学副教授)</td> <td>司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任)</td> </tr> <tr> <td>OPI ファミリアライゼーション</td> <td>OPI リフレッシュャーワークショップ</td> </tr> <tr> <td>牧野 成一先生(プリンストン大学名誉教授・OPI トレーナー)</td> <td>三浦 謙一先生(フランクリン&マーシャルカレッジ教授・OPI トレーナー)</td> </tr> </table>	司会者 陳 姿菁(開南大学副教授)	司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任)	OPI ファミリアライゼーション	OPI リフレッシュャーワークショップ	牧野 成一先生(プリンストン大学名誉教授・OPI トレーナー)	三浦 謙一先生(フランクリン&マーシャルカレッジ教授・OPI トレーナー)
司会者 陳 姿菁(開南大学副教授)	司会者 池畑 裕介(中国文化大学推広部主任)						
OPI ファミリアライゼーション	OPI リフレッシュャーワークショップ						
牧野 成一先生(プリンストン大学名誉教授・OPI トレーナー)	三浦 謙一先生(フランクリン&マーシャルカレッジ教授・OPI トレーナー)						
17:10-17:30	連絡事項、各研究会紹介等 (池畑 裕介 2017 年第 11 回 OPI 台湾大会事務局長)						
18:00-19:30	懇親会 (福格大飯店 淡水區学府路 89 号 http://www.regalees-hotel.com.tw)						

二日目 2017年8月5日(土曜日)

会場	研究発表 第一会場	研究発表 第二会場	研究発表 第三会場	研究発表 第四会場	研究発表 第五会場	研究発表 第六会場
発表主題	対話活動	交流授業	会話分析	OPI 判定と 実施	縦断研究	日本語学
コメンテーター 兼司会者	許 均瑞 銘伝大学 副教授	施 信余 淡江大学 副教授	林 慧君 台湾大学 教授	堀越 和男 淡江大学 副教授	林 玉恵 銘伝大学 副教授	蘇 克保 東呉大学 副教授
09:00-09:30	橋尾 晋平 同志社大学 博士課程 初級日本語学習者の発表する能力・話し合う能力の向上を目指す日本語版「シンプル・ディベート」の提案	工藤 節子 東海大学 助理教授 交流活動における学習環境デザインの要件—あるプロジェクト型交流を事例として	陳 姿菁 開南大学 副教授 日本語学習者における発話分析—OPI 的概念を取り入れた授業を例に	小島堅嗣 山中峰央 後藤歩 培材大学校助 教授・韓国外 国語大学校博 士課程 OPI の複数テ スターによる 判定要因の分 析—判定者間 の信頼性向上 に向けての施 策	世良 時子 成蹊大学 常勤講師 CLD 生徒であ った大学生の 日本語能力評 価に関する考 察—OPI によ る縦断データ の分析から	郭 獻尹 東呉大学 非常勤講師 台湾人学習者 を対象にした 「そうです か」のイント ネーション習 得
09:30-10:00	中村 香苗 淡江大学 助理教授 フィッシュボウ ル式異文化間デ ィスカッション 訓練の成果—L1 話者の調整行動 の変化を中心に	張 瑜珊 東海大学 助理教授 プロジェクト 型交流における 言語行動の 一考察	黄 英哲 台中科技大學 副教授 上級段階で学 ぶ台湾人日本 語学習者の口 頭伝達力につ いて	大隅 紀子 堀 恵子 東京大学非常 勤講師・東洋 大学非常勤講 師 上・超級話者 の発話を引き 出すための談 話展開と効果 的な質問	久保田佐和子 文藻外語大学 常勤講師 OPI を用いた 台湾人日本語 学習者の発話 縦断調査 —文藻外語大 学を例として	劉 志偉 首都大学 助教 撥音便の周辺 形式について —ラ行音の撥 音化に注目し て
10:00-10:30	荒井 智子 銘伝大学 助理教授 学生の思考力の 拡散プロセスを 重視した作文の 授業—ピア・レ スポンスの読み 手側に注目して	落合 知春 山口 知才子 田代 奈緒子 梅村 弥生 イーストウエ スト日本語学 校専任講師・ 同非常勤講師 他者とのかか わりの中で学 ぶ教室活動— 環境問題を通 して	萩原 孝恵 池谷 清美 山梨県立大学 准教授・チュ ラーロンコー ン大学助教授 フィラーとの 共起にみる舌 打ちと笑い —タイ人日本 語学習者の発 話を表象する 非言語行動の 特徴	早矢仕 智子 韓国大真大学 校助教授 語ることは何 が難しいのか —上級タスク 〈ナラティ ヴ〉の抽出方 法—(仮題)	小林 安那 神谷 英里 釜山外国語大 学助教授・ハ ノイ国家大学 常勤講師 やりとり会話 授業における ピアフィード バックの利点 と問題点—学 生へのアンケ ートとインタ ビュー結果か ら	齊藤 真理子 三国 純子 文化学園大学 教授 意見述べに見 られる特徴的 な語彙・表現

10:30-10:40	ティータイム					
会場	研究発表 第七会場	研究発表 第八会場	研究発表 第九会場	研究発表 第十会場	研究発表 第十一会場	研究発表 第十二会場
発表主題	身体表現活動	評価	教室活動	スキル判定と 教育	オンライン 教育	日本語学
コメンテーター 兼司会者	董 莊敬 (文藻外語大学 副教授兼主任)	李 偉煌 (靜宜大学副 教授兼主任)	范 淑文 (台湾大学教 授兼主任)	林 立萍 (台湾大学教 授)	邱 若山 (靜宜大学副 教授)	黄 英哲 (台中科技大 学副教授)
10:40-11:10	清水 泰生 同志社大学 嘱託講師 身体活動とプロ フィシェンシー について—肉体 が変われば日本 語・教授法も変 わる	賴 錦雀 東呉大学 教授 日本語学習者 に求められる 異文化交流能 力の育成と測 定—台湾人の 場合	古田 梨乃 山田 航司 開南大学専任 講師・同交換 研究員 「日本語会話 クラスにおけ る効果的な教 室活動—文法 を使っていか に話させるか	上田 早苗 香港中文大学 高級講師 香港の上級日 本語学習者の 書く力を測る	落合 由治 淡江大学 教授 表現史から見 た日本語 MOOCS の位置 付け	蔡 季汝 樹人医護管理 専科学校 助理教授 日本語学習者 の可能表現に おける理解状 況—中国語を 母語とする場 合
11:10-11:40	堀越 和男 淡江大学 副教授 日台遠隔協働授 業の活動とその 実態—「協働創 作演劇」におけ る学びについて	向井 裕樹 ブラジリア 大学准教授 ブラジルの高 等教育におけ る日本語教育 —口頭運用に 関する教室活 動と評価	王 嘉臨 淡江大学 助理教授 文学授業を活 性化する言語 活動の構築— 淡江大学を事 例として	林 雅芬 何 月華 台中科技大学 助理教授・淡 江大学兼任講 師 大学通訳教材 の開発実践に ついて	曾 秋桂 淡江大学 教授 台湾初MOOCs 「非常村上春 樹」を実践例 として	堀内 仁 国際教養大学 准教授 中国語母語話 者の日本語丁 寧体動詞の発 達—コーパス に基づく分析
11:40-12:10	張 桂娥 東呉大学 副教授 アクティブ・ラ ーニング型授業 における多重評 価システムの時 計をめぐって— 台湾東呉大学日 本語学科4年次 選択科目「時事 日本語」の实践 を例に	関口 要 実践大学 助理教授 台湾の大学の 日本語中上級 会話クラスに おける定期試 験の評価方法	吳 翠華 林 淑璋 元智大学副教 授・同助理教 授 児童文学指導 の新しい試み —子供の日本 文化体験キャ ンプを取り入 れて		宇田 左近 ビジネス・ブ レークスルー 大学副学長 オンラインに よる大学教育 のフロンティ ア	ラッタナポン ピンヨー プラチャヤ ポーン 大阪大学博士 課程後期 推量表現にか かわる認知的 モダリティ— モダリティ形 式に終助詞 「よ」「ね」 が付加されて いる場合
12:10-13:10	昼食(鷺声国際会議場内) ポスター発表					

ポスター発表 (驚声国際会議場 2階)	① 池畑 裕介 (中國文化大学推廣教育部教学主任) 絵本セラピーを使った中上級会話の実践 —癒しの教室を目指して ② 小森 和子 (明治大学准教授) 「話す」と「書く」という産出方法の違いが談話構造に与える影響 —日本語学習者による意見を述べる談話の比較 ③ 虞 安寿美・釜淵 優子 (中國文化大学推廣教育部兼任講師・YUMA Teaching Japanese Firm台湾代表・関西学院大学非常勤講師・YUMA Teaching Japanese Firm代表) 「ビジネス場面で本当に求められる発話能力を考える —面接時の自己PRなどを題材にして ④ カンジャマーポンクン・サティダー (大阪大学) タイ語の疑問文末形式 “ru w” で見た「のだ」疑問文 —問い返し疑問文をめぐって ⑤ 芝田 沙代子 (東呉大学博士課程) アクティブラーニングを目指したJFL日本語教育の可能性 —インターネットのチャットを通して ⑥ 蘇 彦如 (中國文化大学推廣教育部兼任講師) モチベーション研究における動機付け —台湾の高校における第二言語教育を中心として ⑦ 陳 文瑤 (大葉大学副教授) 『できる日本語』で話せる力を育成する試み ⑧ 廖 育卿 (東呉大学博士課程) ポートフォリオを利用した日本語指導法の一試み —自律学習を目指して
---------------------------	---

パネル2

パネルテーマ2:「日本語教育のパラダイムシフト」 司会者:孫 寅華(淡江大学副教授)

13:10-14:30	パネルディスカッション1 20分 講演者:陳 淑娟 (東呉大学教授) 「台湾の日本語教育の今とこれから」 パネルディスカッション2 20分 講演者:嶋田 和子 (アクラス日本語教育研究所代表理事) 「日本の日本語教育の今とこれから」 パネルディスカッション3 20分 講演者:三浦 謙一 (フランクリン&マーシャルカレッジ教授) 「アメリカの日本語教育の今とこれから」 Q&A 20分
14:30-14:45	ティータイム
14:45-15:45	OPI デモンストレーション 鎌田 修 (南山大学教授) 司会者:羅 曉勤 (銘伝大学副教授)
15:45-16:00	ティータイム
16:00-17:00	題名 2017年第11回発表成果と展望——成果共用を目指して 総纏め兼司会者 頼 錦雀(東呉大学教授) パネリスト(会場一) 中村 香苗(淡江大学助理教授) パネリスト(会場二) 施 信余(淡江大学副教授) パネリスト(会場三) 陳 姿菁(開南大学副教授) パネリスト(会場四) 羅 曉勤(銘伝大学副教授)

	<p>パネリスト(会場五) 落合 由治(淡江大学教授・2017年第11次OPI台湾大会副実行委員長)</p> <p>パネリスト(会場六) 池畑 裕介(中国文化大学推廣部主任・事務局長)</p>
17:00-17:10	<p>閉会式 閉会の辞 曾 秋桂(淡江大学教授兼学科主任・村上春樹研究センター長・2017年第11次OPI台湾大会実行委員長)</p>
17:20-18:30	<p>晚餐交流会(驚声国際会議場内)</p>
<p>主催者：淡江大学日本語文学科</p> <p>共催者：(国内)科技部・中国文化大学推廣教育部・ILI 国際語文中心・台湾日本語文学会・台湾日本語教育学会・淡江大学村上春樹研究センター (国外)日本台湾交流協会・日本語Proficiency研究会(JALP:Japanese Association of Language Proficiency)・日本語OPI研究会</p> <p>協賛者：九州OPI研究会・浜松OPI研究会・韓国OPI研究会・ACTFL</p> <p>参加申し込みサイト http://www.harukistudy.tku.edu.tw/news/news.php?Sn=173</p> <p>①大会内容お問い合わせ 電話 +886-2-23567356 内線 7331(池畑事務局長に繋がります) メール 池畑 裕介 kumayujie27@gmail.com</p> <p>②参加受付けと参加関係お問い合わせ メール 落合 由治 098184@mail.tku.edu.tw, taiwan_nichigo@yahoo.co.jp 電話 +886-2-26215656 内線 2340・2341・2958(淡江大学日本語学科まで日本語も可能です)</p>	